

令和5年度第44回  
東京都トラック協会ドライバー・コンテスト  
学科競技問題

【出題内容】

- I 法規：問1～問40
- II 構造機能：問41～問60
- III 運転常識：問61～問80

競技上の注意

この競技は、運転者に必要な関係法規やプロとしての一般的な知識について試問するものです。出題される法令問題は、令和5年4月1日時点の現行の法令に基づき作成しています。

また、この試問は、11トン・4トン・2トン・女性およびトレーラ部門共通となっています。

注意事項

- ① 問題は全部で80問です。
- ② **制限時間は60分です。**
- ③ 解答はすべて別紙の解答用紙に、「正しい」と思うものについて、解答用紙の同じ問番号の枠内に「○」印を、「誤っている」と思うものについては「×」印を下記要領により記載すること。（四肢選択式問題は「○」のみの記載でよい）なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

《例》

【四肢択一式問題】

		選択肢			
問		1	2	3	4
1			○		
2				○	

【○×正誤式問題】

問	答
12	○
13	×
14	×

- ④ 解答用紙には鉛筆またはシャープペンを使用し、誤って記載した場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ⑤ 解答用紙には必ず競技部門、受験番号、氏名を記載すること。
- ⑥ **この問題用紙は競技開始の合図があるまで開けないこと。**
- ⑦ 印刷の不鮮明なところがあれば、着座のまま静かに手を挙げて係員に尋ねること。ただし、問題の内容に触れるものには回答しない。
- ⑧ 問題用紙にメモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は、学科競技時間終了後に選手が持ち帰ること。なお、学科競技時間中に問題用紙を教室外へ持ち出す行為は認めないものとする。
- ⑨ 競技開始30分経過後から退席することができる。退席可能時間になった際に係員より告知を行う。退席する場合、問題用紙は机の上に伏せて置いていき、解答用紙を壇上へ提出し、他の選手のじゃまにならないよう静かに退席すること。なお、一度退席した者については競技時間中の再入室は認めない。
- ⑩ 終了時間については、終了5分前に係員より予告を行う。

令和5年4月27日（木）  
於 東京都トラック総合会館

「いま」を支える。「みらい」をつくる。

## I 法規

### 【4肢択一式問題】

問1. 追い越しに関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に「○」印をしなさい。

ア. 前車はその前を進行している原動機付自転車を追い越そうとしているときにその前車を追い越すのは二重追い越しの違反にはならない。

イ. 踏切とその手前30m以内の場所は追い越し禁止である。

ウ. 道路のセンターラインがオレンジ色の実線の場合、右側部分にはみ出して追い越しをすることはできない。

エ. 走行している道路の左側部分の幅員が5.5mの場合、道路の右側部分にはみ出して追い越しができる。(標識等で禁止されている場合を除く。)

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問2. 徐行に関する次のア～エ記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

ア. 優先道路を通行している場合でも、左右の見通しのきかない交差点では徐行して進行する。

イ. 安全地帯の側方を通過するとき、その安全地帯に歩行者がいなければ徐行の義務はない。

ウ. 歩道と車道の区別のない道路を通行する場合その他の場合において、歩行者の側方通過時に安全な間隔がとれないときは徐行して進行する。

エ. 上り坂の頂上附近を通行するときは徐行しなければならない。

1 一つ

2 二つ

3 三つ

4 四つ

問3. 道路交通法における用語の定義について、次の記述のうち誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

- 1 「車両」・・・ 自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスをいう。
- 2 「駐車」・・・ 車両等が客待ち、荷待ち、貨物の積卸し、故障その他の理由により継続的に停止すること（貨物の積卸しのための停止で五分を超えない時間内のもの及び人の乗降のための停止を除く。）、又は車両等が停止し、かつ、当該車両等の運転をする者（以下「運転者」という。）がその車両等を離れて直ちに運転することができない状態にあることをいう。
- 3 「交差点」・・・ 十字路、丁字路その他二以上の道路が交わる場合における当該二以上の道路（歩道と車道の区別のある道路においては、車道）の交わる部分をいう。
- 4 「路側帯」・・・ 歩行者および自転車の通行の用に供し、又は車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路又は道路の歩道の設けられていない側の路端寄りに設けられた帯状の道路の部分で、道路標示によって区画されたものをいう。

問4. 駐停車に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

ア. 車両通行帯のあるトンネルでは駐停車することができる。

イ. 路側帯が広い場合はその中に入って駐車できるが、その場合は車の左側に0.5メートルの余地をあげなければならない。

ウ. 横断歩道又は自転車横断帯の前後の側端からそれぞれ前後に10メートル以内の部分は駐停車禁止である。

エ. 駐車した場合、車の右側に3.5メートル以上の余地がなくなる場合は駐車できないが、貨物の積み降ろしを行う場合で運転者がその車両を離れないときは駐車することができる。

1 一つ

2 二つ

3 三つ

4 四つ

【○×正誤式問題】

問5. 右の標識は、右折禁止を表している。



問6. 右の標識の場所は歩行者・車・路面電車のいずれも通行できない。



問7. この路側帯では車は駐停車禁止である。



問8. 右の標識は優先道路を示している。



問9. 右の標識は追い越し禁止を表している。



問10. 右の標識は、ここから先で車線数が減少することを示している。



- 問11. 車両は、交通整理の行われていない交差点において、その通行している道路と交差する道路を右方から進行してくる車両の進行妨害をしてはならない。
- 問12. 夜間、他の車両を牽引する場合でも尾灯と番号灯をつけなければならない。
- 問13. 道路標識等により最低速度が指定されていない高速自動車国道の本線車道における最低速度は時速50kmである。
- 問14. 3色の灯火を備える信号機の灯火の配列は、縦配列の場合上から赤→黄→青とするよう法令で定められている。
- 問15. 道路工事が行われている場所ではその区域の側端から3メートル以内の部分は駐車禁止である。
- 問16. バス・路面電車の停留所の標示板（柱）から10メートル以内の部分は駐停車禁止である。
- 問17. 赤色の点滅信号では、車両は他の交通に注意して進行する。
- 問18. 右または左へ車線変更をするときは、その行為をしようとする3秒前から合図を開始する。
- 問19. 警察官が灯火による信号（手信号）により、信号機の赤信号と同じ意味の信号を示しているとき、停止位置はその警察官の3メートル手前の場所である。
- 問20. 乗務前点呼において報告・確認の義務がある事項は、酒気帯びの有無と車両点検の実施についてである。
- 問21. 道路交通法における自動車の種類は、車両総重量11t以上、最大積載量6.5t以上のものは大型車、車両総重量7.5t以上11t未満、最大積載量4.5t以上6.5t未満のものは中型車に区分される。
- 問22. 停留所において乗客の乗降のため停車している路線バスが発進合図を出しているときは、その後方にある車両は路線バスの進路の変更を妨げてはならない。
- 問23. 貨物自動車運送事業の種類は3種類である。

- 問24. 昼間でも、視界が高速道路では200メートル以下、その他の場所では50メートル以下であるような暗い場所を走行するときは、前照灯などを点灯しなければならない。
- 問25. 車両は、道路外の施設に出入するため歩道を横断するとき、周辺に歩行者等の存在がないことが明らかである場合を除いて必ず一時停止する。
- 問26. 本籍、住所、氏名など、免許証の記載事項に変更があった場合は、次の免許更新のときに住所地の公安委員会に届けなければならない。
- 問27. 運転者は車両のための設備以外の場所には人員を乗車させて運転してはならないが、貨物自動車では貨物の看守のためであれば最小限度の人員を荷台に乗車させて運転してよい。
- 問28. 車両等は、交差点またはその直近で横断歩道の設けられていない場所において歩行者が道路を横断しているときは、その歩行者の通行を妨げてはならない。
- 問29. 運転中自動車を停止または後退するときは、その行為をしようとするときの3秒前のときに合図を行わなければならない。
- 問30. 車両等を離れるときは、5分以内程度のわずかな時間であればその原動機を止めることを要しないが、完全にブレーキをかける等当該車両等が停止の状態を保つため必要な措置を講じなければならない。
- 問31. 車両等が踏切を通過しようとするとき、直前の信号機の表示する信号に従う場合は一時停止は不要である。
- 問32. 自動車を後退させるときはシートベルトの着用義務は免除される。
- 問33. 右左折や進路変更をするために合図を出したときは、それらの行為が終わるまで合図を継続しなければならない。
- 問34. 貨物が分割できないものであるため政令で定める積載重量制限を超えてしまう場合、管轄する地域の運輸支局長の許可を得た場合は制限を超える積載をして運行できる。

**問35.** 交差点を右折するとき、道路標識等により通行すべき部分が指定されていない場合は、交差点の中心の直近の外側を徐行して通行する。

**問36.** 車両の全長が5メートルの貨物自動車に全長6メートルの貨物を積載し、車両の后端から貨物が80センチメートルはみ出るよう積載した。

**問37.** 車両は、一方通行路を通行するときは、道路の中央から右の部分にその全部または一部をはみ出して通行できる。

**問38.** 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路での貨物自動車の最高速度は、最大積載量や車両総重量にかかわらずすべて時速60キロメートルである。

**問39.** 道路交通法第66条の「過労運転等の禁止」に違反すると違反点数は25点である。

**問40.** 車両等は、信号機が赤色の灯火を表示しているときは、停止位置を超えて進行してはならない。ただし、交差点において既に右折している車両等はそのまま進行することができる。

## Ⅱ 機能構造（20問）

### 【4肢択一式問題】

問41. 事業用貨物自動車の日常点検に関する次のア～エの記述のうち、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りるものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に「○」印をなさい。

- ア. バッテリーの液量が適当であること。
- イ. エンジン・オイルの量が適当であること。
- ウ. 原動機のかかり具合が不良でなく、異音がないこと。
- エ. 冷却水の量が適当であること。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

**問42.** 車両点検を実施する際の留意事項に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

- 1 パーキング・ブレーキを確実に効かせ、ギアはバックに入れること。
- 2 エンジンを止め、スタータ・キーを必ず抜き取ること。
- 3 平たんな場所で行うこと。
- 4 タイヤに輪止めをかけること。

問43. 次の文章の(A)(B)(C)に入る数字の組み合わせとして正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

自動車は、告示で定める方法により測定した場合において、長さ(セミトレーラにあっては、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離)(A)メートル(セミトレーラのうち告示で定めるものにあつては、13メートル)、幅(B)メートル、高さ(C)メートルを超えてはならない。

	(A)	(B)	(C)
1	10	2.3	3.8
2	10	2.5	4.1
3	12	2.5	3.8
4	12	2.3	4.1

問44. 道路運送車両法の保安基準およびその細目を定める告示について次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に「○」印をなさい。

ア. 貨物の運送の用に供する自動車（三輪自動車、被牽引自動車及び前部潜り込み防止装置を備えることができないものとして告示で定める自動車を除く。）であって車両総重量4.5トンを超えるものの前面には、他の自動車が衝突した場合に衝突した自動車の車体前部が潜り込むことを有効に防止することができるものとして、強度、形状等に関し告示で定める基準に適合する前部潜り込み防止装置を備えなければならない。

イ. 自動車（二輪自動車等を除く。）の空気入りゴムタイヤの接地部は滑り止めを施したものであり、滑り止めの溝は、空気入りゴムタイヤの接地部の全幅にわたり滑り止めのために施されている凹部（サイピング、プラットフォーム及びウエア・インジケータの部分を除く。）のいずれの部分においても1.4ミリメートル以上の深さを有すること。

ウ. 自動車の最小回転半径は最外側のわだちについて10メートル以下でなければならない。

エ. 窓ガラスは装着され、貼り付けられ、又は塗装された状態において、透明であるもの。この場合において、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分にあっては可視光線透過率が70%以上であることが確保できるもの。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

- 問45. ホイール・ボルトやホイール・ナットの締め付け方法には、球面座で締め付けるJIS方式と平面座で締め付けるISO方式があり、既定の締め付けトルクで確実に締め付ける。
- 問46. タイヤ交換をしたときは、初期なじみのためタイヤ交換後300キロメートルを目安にナットの増し締めを実施するとよい。
- 問47. 自動車の長さ、幅、高さの測定については、積車状態において告示で定める方法により測定しなければならない。
- 問48. 自動車に備えなければならない後写鏡は、取付部付近の自動車の最外側より突出している部分の最下部が地上2メートル以下のものは、当該部分が歩行者等に接触した場合に衝撃を緩衝できるものでなければならない。
- 問49. 警音器は、運転者が運転者席において音の大きさや音色を容易に変化させられるものでなければならない。
- 問50. ナンバープレートには車両の用途を示すひらがなが一つ記されているが、事業用トラックにおいて「さ」が用いられることはない。
- 問51. 事業用貨物自動車の点検整備記録簿の保存期間は、その記載の日から1年間である。
- 問52. 車両総重量＝車両重量＋乗車定員×60kg＋最大積載量 である。
- 問53. 自動車の「輪荷重」とは、自動車の一つの車輪を通じて路面に加わる鉛直荷重をいう。
- 問54. 自動車の方向指示器は、橙色であって点滅回数は毎分80回以上120回以下の一定の周期で点滅するものでなければならない。
- 問55. 衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱警報装置などの先進技術を利用してドライバーの安全を支援するシステムを搭載した自動車は「ASV」と呼ばれている。
- 問56. 尾灯の灯光の色は橙色であること。

**問57.** 最新のディーゼルエンジン車に搭載されている尿素SCRシステムは、排気ガスに含まれる有害物質をA d B l u e（尿素水）を用いて無害な水と窒素に分解する。

**問58.** 天然ガスを燃料とする自動車のうち、圧縮天然ガスを使用するものはCNG車と呼ばれている。

**問59.** 自動車の車体の後面には、最大積載量を表示しなければならない。

**問60.** 2023年1月より運用が開始された電子車検証では、券面に「有効期間の満了する日」は記載されなくなった。

### Ⅲ 運転常識

#### 【4肢択一式問題】

問61. 坂道・カーブの走行に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。  
解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

- ア. カーブを走行するときは、カーブに入ってから十分にスピードを落とす。
- イ. カーブでハンドルを切った際働く遠心力は、速度の2乗に比例して大きくなり、またカーブの半径が小さいほど大きくなる。
- ウ. 下り坂では低速のギアを用い、エンジブレーキを活用する。
- エ. 近くに待避所のない坂道ですれ違いが難しいときは、上り坂での発進が難しいため、下りの車が上りの車に道を譲る。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問6 2. 車が衝突したときの衝撃力に関する次の記述のうち、正しいものはいくつあるか。  
解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

- ア. 速度が3倍になれば、衝撃力は6倍になる。
- イ. 衝撃の作用が短時間に行われるほど衝撃力は小さくなる。
- ウ. 重量が重いほど衝撃力は大きくなる。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 無し

**問63.** 緊急時の措置に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

- 1 走行中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り、急ブレーキを避け、断続的にブレーキを踏んで停止する。
- 2 むかるみなどで車輪が空回りするときは、古毛布、砂利などがあれば、それを滑り止めに使うと効果的である。
- 3 後輪が横滑りを始めたときは、ブレーキはかけず、まずアクセルを緩め、同時にハンドルで車の向きを立て直す。
- 4 後輪が右に滑ったときは、ハンドルを左に切って車の向きを立て直す。

問64. 貨物自動車運転者の拘束時間に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に「○」印を下さい。

ア. 1日の拘束時間の限度は原則13時間である。

イ. 1日の拘束時間を延長した場合、15時間を超える回数は、1週間に3回が限度である。

ウ. 1ヶ月の拘束時間は原則296時間を超えてはならない。

エ. 拘束時間とは始業時刻から終業時刻までの労働時間と休憩時間を合算した時間であるが、仮眠時間は含まれない。

1 一つ

2 二つ

3 三つ

4 四つ

【○×正誤式問題】

- 問65. 同じ距離にあっても、小型車は遠くに、大型車は近くに見える。
- 問66. 運転中の疲労は手足にもっとも強く現れ、ハンドルやブレーキ操作が遅れたりする。
- 問67. 運転時間は2日（始業時間から起算して48時間）を平均し、1日あたり9時間、2週間を平均し1週間あたり44時間を超えないものとする。
- 問68. 夜間走行中、自車と対向車のライトで道路中央付近の歩行者などが見えにくくなる現象を眩惑現象という。
- 問69. 信号が青の灯火になっても前の車が発進しないため、警音器を鳴らして発進を促した。
- 問70. 濃霧のときは前照灯を上向きにする。
- 問71. 自動車の重量が増加すればするほど制動距離も長くなる。
- 問72. 路面が水で覆われているときに高速走行すると、水上を滑走する状態となり、操縦不能となることがある。これを「ウエット・スキッド現象」という。
- 問73. A営業所から50キロメートル離れた荷主工場まで往復したところ、15リットルの燃料を消費した。この場合の燃料消費率は約3.3 km/lである。
- 問74. 内輪差とは車が曲がるときに前輪が後輪より内側を通ることによる前後輪の軌跡の差をいう。
- 問75. 50 km/hで走行中の自動車の2秒間の走行距離は約28メートルである。
- 問76. タイヤの空気圧不足のままの高速走行はスタンディングウェーブ現象の原因となる。
- 問77. 車を運転中に大地震が発生し、やむを得ず車を道路上に置いて避難するときは、エンジンキーは付けたままとするか運転席など車内のわかりやすい場所に置き、窓は閉じ、ドアはロックしない。

**問78.** 風速30m/秒以上の風が吹いているときは、トラックが横転する危険性が高いので輸送することは適切でない。

**問79.** 夜間は速度感が鈍って速度が遅くなりやすい。

**問80.** 事業用自動車の運転者が酒気を帯びた状態にあるときは、その旨を事業者に申し出なければならないが、呼気中のアルコール濃度が0.15mg/ℓ以下であれば、少量のアルコールが検知されても道路交通法の酒気帯び運転とならないので申し出る必要はない。